

欧米の新型コロナウイルス感染再拡大

ポイント① 活動制限を再び強化

欧州での新型コロナウイルスの感染は、外出制限などの活動制限措置により一旦収まったものの、図1が示すように7月下旬から新規感染者数が再び増加し、10月から急加速しました。フランスで10月30日から2回目の全国的な外出制限が行なわれるなど、欧州各国で活動制限措置が再び強化されています。11月に入って新規感染者数は頭打ちになっていますが依然高水準であり、すぐに活動制限を緩和できる状況ではないようです。

一方、米国では地域ごとに活動制限措置が取られてきたものの、欧州諸国のような広範囲かつ強硬なものではなく、新規感染者数は9月から急増し、現在は感染第三波の只中にあるようです。

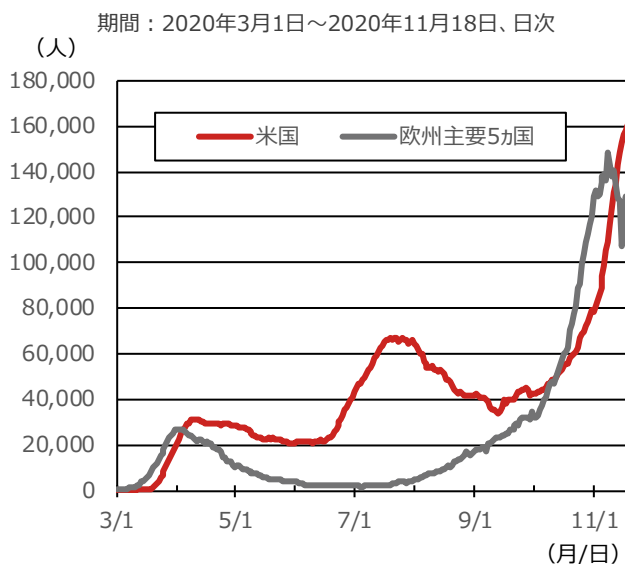
ポイント② 景気鈍化の懸念

ユーロ圏と米国の実質GDP（国内総生産）は4-6月期の急減の反動で7-9月期には急反発しましたが、活動制限の強化により、10-12月期には大幅な鈍化が懸念されます。米国の10月の小売売上高は前月比+0.3%と6か月連続で増加したものの、増加率は前月や事前の市場予想を下回りました。

ポイント③ 市場はワクチン開発進展を好感

図2が示すように、欧州株は7月頃から上昇が止まり、米国株も9、10月と不安定な動きとなって、感染拡大の影響が伺われました。ただ、11月に入ると、米大統領選挙が終わって不透明感が薄れたことや、開発中の新型コロナウイルスのワクチンが最終治験で高い効果を示したとの報道を好感して大きく上昇しました。株式市場は目先の感染拡大や景気鈍化の影響は受けにくいと見られますが、ワクチンの効果、認可や接種本格化のタイミングを巡って揺れ動く可能性はあるでしょう。

図1：欧米の新型コロナウイルス新規感染者数

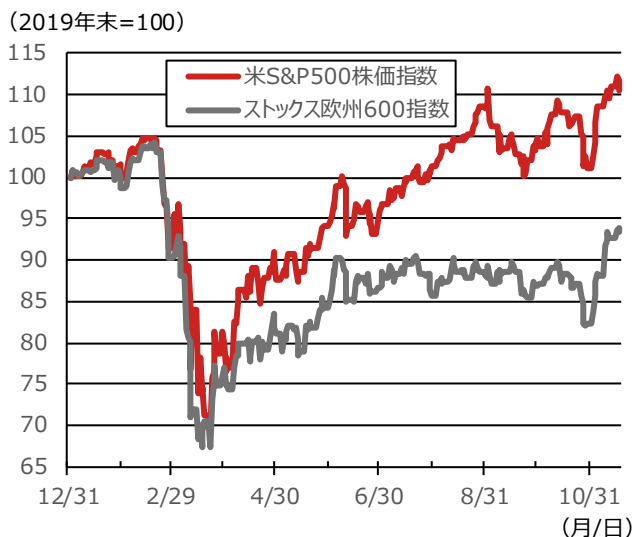


(注) 7日間移動平均値。欧州主要5カ国はドイツ、フランス、英国、イタリア、スペインの合計。

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：欧米の株式指数

期間：2019年12月31日～2020年11月18日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

11月25日 米個人所得、個人消費支出
(10月)
11月27日 欧州委員会ユーロ圏景況感指
数(11月)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。